

2014
第6号FREE
PAPER

共利群生の もりをめざして



素屋根が外され、中門が全容を現しました。

高野山の美林と信仰

総本山金剛峯寺 山林部長 山口 文章

先日、初対面の報道関係者に山林部長名の名刺を渡してご挨拶申し上げたところ、「山林部とは何をする部門ですか?」と質問されました。林業関係産業が低迷して久しい感がありますが、すでに「林業」が「生業」として認識されていない現実に大きなショックを受けました。

一方、平成二十七年に厳修される「高野山開創千二百年記念大法会」の中心事業として完成する「大伽藍中門」の建設用材として金剛峯寺の山林から檜の巨木を伐り出して使用したところ、数億円という経費の圧縮に成功しました。これは高野山のシンボルである美林が信仰的にも経済的にも他に例をみない価値を有していることを意味しています。

なぜ、同じ日本の森林でありながら、このようなかけ離れた二つの話が成り立っているでしょうか?

それは、高野山という靈峰がもつ特殊性にほかなりません。高野山は、「燈明信仰」の聖地として古くから信仰をあつめてきました。燈籠堂にかけられた無数の燈籠には、寄進者の篤い信仰が充満しています。お大師さまの「いのち」が宿る燈籠を寄進することにより、絶大な功德とともに諸願が成就するといふ信仰は、高野山奥之院の象徴的な信仰形態であります。

また、燈籠堂と共に奥之院の代名詞といえるのが「奥之院の大杉林」です。単に山林を育成するという植樹ではなく、燈籠と同じく、お大師さまへのお供えとして植樹する信仰は「献木植樹」として連綿と伝えられてきました。また、世界遺産として国内外を問わず多くの参詣者を魅了する高野山の信仰環境は、この「献木植樹」によって護られてきたといつても過言ではありません。

「献木植樹」された苗木は高野山の靈氣を清涼な水をいっぱいに吸い込み、着実に成長していきます。奥之院参道に代表される巨木林は、数百年という長い年月を経た靈氣の結晶であり、それを宿した苗木を献木した寄進者の篤い信仰の結実であります。これらのことを考え合わせると、高野山の森林は古くから「経済林」ではなく「信仰林」として成立してきたことがわかります。また、前述の疑問の答えがここにあります。

篤い信仰と永年の靈氣の結晶である高野山の美林に、是非、足を運ばれることをおすすめします。



高野山開創1200年記念大法会
法会期間 平成27年4月2日～5月21日



文化財の森システムに 設定されました。

前回号で申請の報告させて頂きました「文化財の森」

に平成26年3月24日付けで設定されました。檜皮の

設定地は全国で20箇所となります。

これにより全国的に不足している檜皮の供給に貢献

したいと考えております。



屋根の葺き替えを終えた金剛峯寺県指定大主殿(平成11年)

設定番号第 56 号

ふるさと文化財の森設定書

金剛峯寺寺有林

材種: 檜皮
所在地: 和歌山県伊都郡高野町
所有者: 宗教法人金剛峯寺
管理者: 宗教法人金剛峯寺 山林部

我が国の歴史と文化を伝える文化財建造物の保護についての国民の理解を増進し、修理のための資材の安定的確保を図るため、上記をふるさと文化財の森として設定する。

平成26年3月24日

文化庁長官 青柳 正規



全面解体修復を終えた伽藍国宝不動堂(平成7年)



さられました。

これらの用材はさらに選別され、最終的には化粧材として171m³、野木材として58m³、合計229m³が使用されました。

中門の総重量は檜皮屋根を含め約200トン有り、18本の柱で支えられています。

残材は記念品として使用、表皮は檜皮として屋根に使い、靈木のひとかけらも無駄にしないよう配慮されました。

原数量は約440m³となります。

また、樹齢100年程度の間伐材も、小さな部品や野物として使われており、その数は約100本、直径は40~50cmで、原数量は約100m³となります。

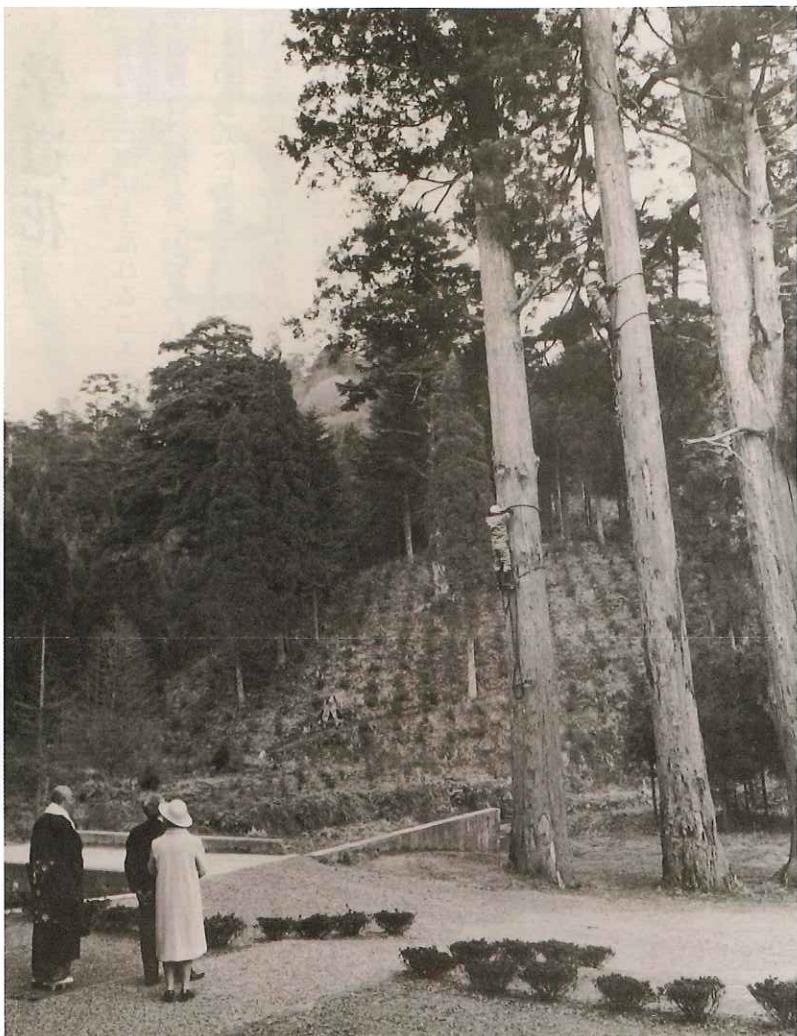
樹高は20m~30mで、部材に応じて玉切りされ、1m~20cm程度の良木が山上にて伐採されました。

現在、中門では本年12月の完成を目指し、1層目の色彩と基壇の石積み工事が施工されています。この中門で使用された大径木の全ては、高野山の七里結界から集められた靈木です。

高野の宮大工 伝統を伝える

参与会

昭和52年4月昭和天皇香淳皇后両陛下が高野山に行啓されました。その際奥之院三本杉に於いて高野山の伝統的な林業技術であるブリ台記念碑の結界改修と「お山を美しく」看板設置に参与会のご協力を頂きました。



この度、そのお立ち台記念碑の結界改修と「お山を美しく」看板設置に参与会のご協力を頂きました。



倒指の藤さかさしのふじ

今回は七株の靈木の一つ「倒指の藤（さかさしのふじ）」を紹介いたします。

場所は壇上伽藍御影堂の後方にあり寛仁元年、高野山中興の大徳祈親上人が、法燈の長い繁栄を祈るために植えられたとのことで、この藤は当山の運勢の強さを占うためさかさまに植えたと伝えられています。

それが見事に活着し、つるを張つて栄え年々見事な花の房をたれて山を飾つたといわれておりますが、惜しくも永正の大火で枯れ、その後も跡地に白藤が植え継がれ名木の跡が保たれています。

紀伊続風土記には「永正の災いに焼枯せり、またその白藤を植継ぎてなお蔓衍す」とあります。

毎年五月の中頃にはきれいな白房がひつそりと見頃をむかえます。



高野山鉢木の跡をたすねる

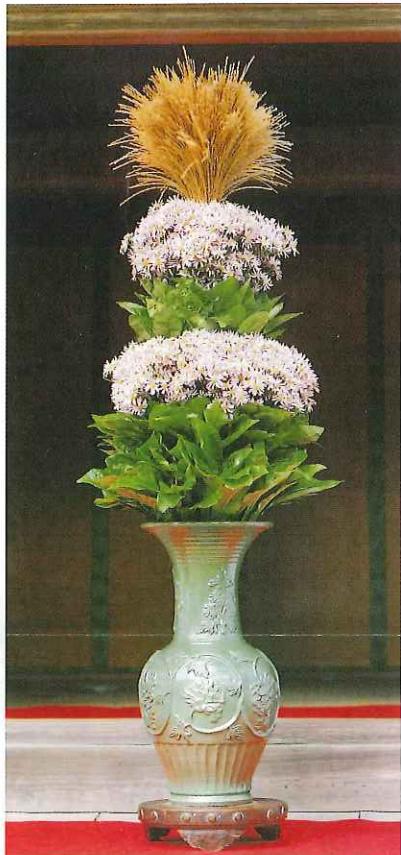
学道花

紫苑の花が咲き乱れるころ高野山の最も重要な学道修行「勸学会」が行われております。この儀式に欠かすことのできない紫苑は「学道花」と呼ばれ、昔はお山の至る所で見られましたが最近は減少傾向にあります。

どうしても昔のように花畠を取り戻したいと言う思いから兵庫宗務支所 淨徳寺 宇賀住職より10年以上もの間、紫苑の育成費として御寄進いただいております。

今回、その取り組みの一つとして紫苑花壇を設

けさせて頂き、奉納式のため御登山の宇賀住職に現地をご観察いただきました。
紫苑の花言葉は「君の事を忘れない」・「遠方にある人をにし、尊厳護持に努めます。



平成27年版予約受付中



木製干支カレンダー・短冊付
価格 3,500円

**献木一口
2,000円**
——
なお、一回に五口以上の献木を
いただいた方には1本進呈致します。



今年の短冊は、弘法大師筆
崔子玉座右銘断簡
(さいしげよくざゆうのめいだんかん)

「人の短をいうなけれ 己の長を説くなけれ
になります。」

■解説■

中国、後漢時代の儒学者である崔子玉が人生の戒めとして著した銘文の一部。他人の短所を非難せず、自分の長所を自慢しないという意味。数少ない弘法大師の自筆文。

**高野靈木を使用した
干支カレンダーが
出来ました。**

限定1,000本

お問い合わせ

〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山132 金剛峯寺 山林部
TEL.0736-56-2016(直) FAX.0736-56-4640

E-mail sanrinka@koyasan.or.jp

※次号から会報の送付を停止する場合は、お手数ですがご一報ください。

編集後記

ちょっと
ええ話

「情けは人のためならず」と言うことわざがあります。

平成22年の文化庁の国語に関する世論調査でも半数が本来の意味ではない「人に情けを掛けてやることは、結局はその人ためにならない」との回答をしています。

人に情をかけておけば、それがめぐりめぐってまた自分にもよい報いが来る。人に親切にしておけば必ずよい報いがある。と言うのが本来の意味です。

某大学でも、研究成果として「ヒトにおいて親切が広く交換されるための仕組み(社会間接互恵性)」について科学的に実証されています。

世代から世代へと語り継がれてきたこのことわざを、私たちはあらためて見つめ直し、いつも心にとめておく必要があります。

また祖山の森林管理についてご意見ご要望などございましたらお聞かせください。

ウェブでも情報発信中!! <http://koya-forest.jp/blog/>

山林部ブログ

検索

『献木』お振込先

振替用紙をご送付致しますので、山林部までご連絡下さい。
郵便振替口座: 大阪 00930-6-61758
ゆうちょ銀行: ○九九支店 当0061758
加入者名: 宗教法人 金剛峯寺山林部